

氷原短歌会様(神奈川県茅ヶ崎市) 2~3

好日俳句会様(東京都・江戸川区) 3~4

横瀬功様(新潟市・西区) 5

投稿作品 6~10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(とっておきの暑さ対策) 11~12

ニュースあれこれ 13

お客様の「リレーエッセイ」 山川元旦様 14

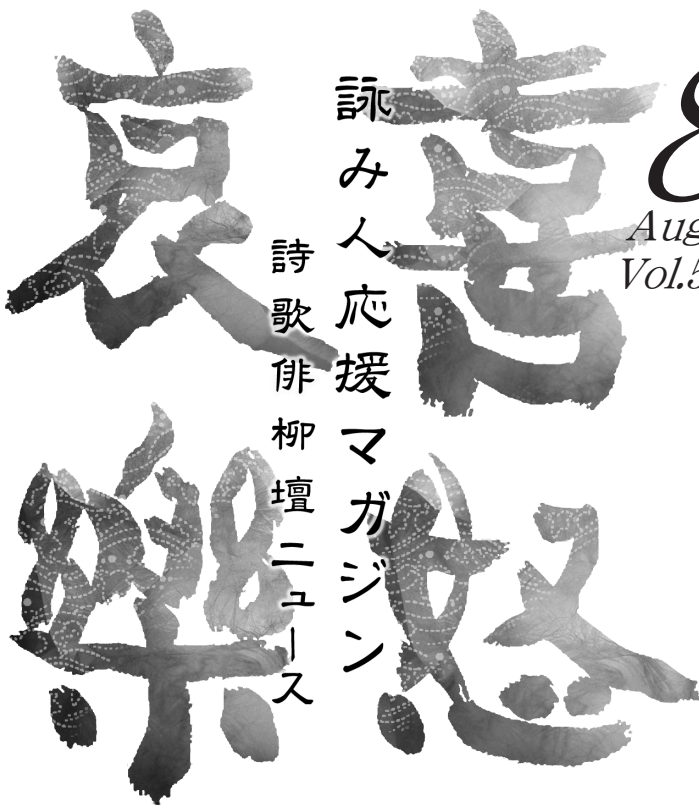
新潟ぶらり／ドン山／信濃川クルーズ 15

詠み人の「リレーエッセイ」俳人中西夕紀様 16

8 August Vol.57

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニュース



温古知新①

「源氏物語」2

前回に引き続き、今回の「温古知新」も「源氏物語」のあらすじを。前回では幼いころの紫の上を引き取った源氏。今回は、第六帖の「末摘花」から第十二帖の「須磨」までをお届けします。

源氏は、乳母子の大輔の命婦から亡き常陸宮の姫君(末摘花)の噂を聞き、求愛します。ある雪の朝、姫君の顔をのぞき見た光源氏は、長く垂れて先の赤い鼻をした容貌に仰天。しかし、見捨てることはせず、彼女の暮らし向きへ援助を行うようになったのです。

また、世間は朱雀院で開かれる紅葉賀に向けての準備にぎやかに。桐壺帝は藤壺が懐妊した喜びで、一の院の五十歳の誕生日の式典という慶事をより盛大なものにしようとします。ところが、その子は源氏の子だったのです。帝は式典に参加できない藤壺のために、特別に手の込んだ試楽(リハーサル)を宮中で催し、源氏は青海波の舞を舞います。翌年二月、藤壺は無事男御子(後の冷泉帝)を出産。源氏と藤壺は罪の意識に苛まれます。

同じころ、桐壺帝に仕える年配の女官で、希代の色好みという評判がある源典侍と、好奇心旺盛な源氏と頭中将は冗談半分であわむれます。

その年の秋、藤壺は中宮に立后。源氏も宰相(参議)に。

翌年。如月に紫宸殿で催された桜花の宴で、源氏は頭中将と共に漢詩を作り「春鶯囀」を披露。宴の後弘徽殿で源氏は若い姫君(朧月夜君)と出逢い契りをおぼしました。

後、桐壺帝が譲位し、源氏の兄の朱雀帝が即位。藤壺中宮の若宮が東宮となり、源氏は東宮の後見人になります。

賀茂祭(葵祭)の御禊(賀茂斎院が加茂川の河原で禊する)の日、源氏も供奉のため参列していました。その

姿を見ようと身分を隠して見物していた六条御息所の一行は、同じくその当時懐妊して体調が悪く気晴らしに見物に来ていた源氏の正妻葵の上の一行と、見物の場所をめぐつての車争いを起こします。これによって、御息所は恥をかかれ、彼女は葵の上を深く恨みました。その後、葵の上は病の床についてしまいます。それは六条御息所の生霊の仕業でした。葵の上は難産のすえ男子(夕霧)を出産しますが、数日後の秋の司召の夜に容体が急変し亡くなります。葵の上の四十九日が済んだ後、源氏は二条院に戻り、美しく成長した紫の君と密かに結婚したのでした。

源氏との結婚を諦めた六条御息所は、娘の斎宮と共に伊勢へ下ることを決意。源氏も、御息所を哀れに思つて秋深まる野の宮を訪れ、別れを惜しむのでした。

斎宮下向から程なく、桐壺帝が重態に陥り崩御。藤壺は桐壺帝の一周忌の後突然出家します。悲嘆に暮れる源氏は、右大臣家の威勢に押されて鬱屈する日々の中、今は尚侍となつた朧月夜と密かに逢瀬を重ねますが、ある晩右大臣が現場を目撃。激怒した右大臣と弘徽殿太后は、これを期に源氏を政界から追放しようと画策するのです。

また、五月雨の頃、源氏は故桐壺院の妃の一人麗景殿女御を訪ねます。妹の二の君(花散里)は源氏の恋人で、姉妹は院の没後源氏の庇護を頼りにひっそりと暮らしていました。女御の邸は橘の花が香り、昔を忍ばせるほととぎすの声に源氏は女御としみじみと昔話を語り合い、その後そつと二の君を訪れました。

朧月夜との仲が発覚し追いつめられた光源氏は、自ら須磨への退去を決意します。左大臣家を始めとする親しい人々や藤壺に暇乞いをし、東宮や女君たちには別れの文を送り、一人残してゆく紫の上には領地や財産をすべて託したのでした。須磨の侘び住まいでしたが、都の人々との文通に慰められます。やがて三月上巳の日、海辺で祓えを執り行った矢先に恐ろしい嵐に襲われます。

須磨に下つた源氏。いったいどうなってしまうのか!? 次回、あのお方の登場です。(古川久美子)

氷原短歌会

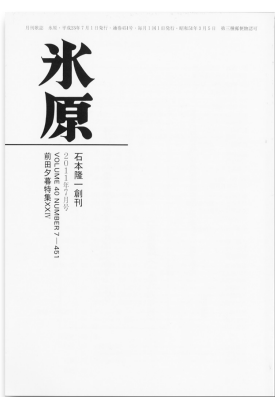
代表 長澤ちづさま

(神奈川県・茅ヶ崎市)

東京駅から東海道本線に揺られること約1時間、ここは茅ヶ崎市立図書館会議室。今日は「氷原短歌会」にお邪魔しました。歌会はまだ2回目で勝手がよくわからない不安を残しつつ、さていかに―。

句会のように投句や選句はなく、各人が用意した歌のコピーが配布される「では、はじめます」ということで1番の方から自らの歌を披露する。歌の数は、5〜10首と人によつて様々な模様。参加者が自由に意見を述べ、最後に代表がまとめるという方式。

明日といふ日もありなむと先送り余生あるよでなきを知らざり のぼる
ゆつくり急げ、という言葉あつたが、この歌はそんな感じかなあと「せまい日本そんなに急いでどこに行く」という標語があつたが―。



▲月刊誌「氷原」は7月号で通巻451号



▲代表の長澤ちづ様

代表：下の句をあまりに当たり前におさめている。余生つて振り返ったときにわかるもので、年齢にかかわらず生きていく時に余生とは思わない。
作者：実のところ、まだまだ余生じゃないつていう気持ちもある。

代表：私もそう思う。だからこれは言わない方がいい。さつきおつしやつた標語のような言葉を入れてもいいかもしれない。

願ひたるも吾子授からず過ぎてこし毎年届く母の日の花束重し たか江

作者：結婚して社宅に住み、亡き主人の後輩をよんでは夕飯をふるまつたりしていた。手術で子どもが産めなくなつた自分の気持ちをなぐさめるためにやつたことなのに、孫までいるその人たちが、毎年花束を送つてきてくれる。それが30年となり、少し重く感じるようになった。

代表：お母さんがわりだつたのね。七の「毎年届く母の日の花束重し」は字あまりだし「今年も届く母の日の花束」にしては。

遠くからママを見つけたをさな児は額ひからせて太陽のひかり 隆子

作者：10ヶ月にもなると生意気になつて「ママじゃないのか、ババカ」つて表情

をする。「ていだ」は沖繩の言葉で太陽、同名の歌もある。

代表：もう10ヶ月になったの！ 以前のメロメロの時と大違いね(笑)。その夏川りみさんの歌、歌つてください(隆子さん、一番全部歌う)。

どうしたの写真嫌いの夫が笑みあじさいバツクに撮つてくれとう マサエ

作者：言われたとき、遺影のことかと思つてドキツとしたその気持ちを表現したいと思つたができなかった。

代表：それはわからなかった。撮つた写真を誰かにあげるのかと思つた。

作者：遺影を入れた方がいい？
代表：それは言わない方がいい。初句を「どうしたか」とする。

風のみち襖細目に開けたれば眠れぬ夜の読書ためらう 雅世

子どもが隣で寝ているので、明かりがもれないか気になるといふ歌/片方が洋間の場合は「戸襖」といふ言葉がある/細く開けば風の道とか？

代表：これが子供との境だとわかればもつといい。皆さんいろいろ言つてくれたことを参考に、では「戸襖を細目に開けて風のみちあかりもれるに読書ためらう」でどうでしょう。

重重と地に届くほど初生りの茄子に触るれば堅く艶めく 信子

代表：重重と、はずごく重苦しいから重ね字の「々」にして重々とかから始めないほうがいい。「初生りの茄子重々と地に届く」。「触るれば」はほろぼると落ちる感じなので、他の言葉にするとか、色を詠んだ方がいい。

「握れば」とか、棘を詠んでみては？
代表：棘を出すのは瑞々しい新鮮さが

出ているですね。

来し方は変ふる術なし願はくは残生事無く死は安らかに 郁子

代表：実際そうであつたとしても硬すぎる。観念的なので、上の句を観念的にしたら下の句は具体化しないと。もう少し小林さんらしい表現で残生(以下を表現できたらと思う)。

先月の歌会で「老い」といふ言葉は禁句、と皆さんに言われたから使うのをやめている。

代表：そうね、自分に禁句を作ると違う言葉を考える。死や老いという言葉を使うと全てひつくるめてしまうから、なかなか自分らしい言葉にたどりつかない。

作者：最近、恐れ多いけどお経の言葉に近い心境になることがある。

代表：お経に近い心境なんてすごい！
作者：あほだら教です(笑)。

代表：今回の歌は、娘さんに喜寿のお祝いをしてもらい、うれしくてまだ感情が収まっていな印象。事が起きた瞬間は言葉になりにくいから、もう少し時間をおいて作る。でも、こうやつて詠んでいるから次のステップに進める。

酔いし時「行々子」と言われしは勤め始めて間もなき頃なり 菊夫

作者：これが葦切の写真(と写真を回覧する)、目くらましに準備しました(笑)。「ぎょうぎょうし」はその鳴き声から葦切の別称。つまり口数が多い、と言われた。

じゃあ、もつとよくわかるように「我」とか「しゃべり上戸」とか入れたら？/言われし↓呼ばれし、にした方がいい。

笑顔礼讚西東



▲8/20・21には立川で「氷原短歌会全国大会」が開催される

声深くさびしいわねと友洩らす子との
間ふとした齟齬に
美彌子

代表：「洩らす」というと、普通はさらつという感じだが、ここでは大切な意味を担っている。初句に「声深く」を置いたのはすごくいい。そして齟齬、完成された作品。

大玉のめろめろメロンとさくらんぼおみやげ付の旅の醍醐味
龍一
作者：母ちゃんと読売旅行で行つてきた。これがチラシ。

代表：本当にめろめろメロンと書いてある！めろめろメロンなら、さくさくさくらんぼついたら(笑)?おいしくて、楽しそうなのが伝わる。

田園の真中に建ちし近代校舎丹沢連山望めるところ
トヨ
代表：分離開校、開校準備などの言葉が多く出てくるが、言葉に勢いがあり固まっていく時代の緊張感を表現しているので一概に悪いとはいえない。わざわざ



柔らかい言葉に置き換えなくても、逆にいいかもしれない。
その頃の生徒がここに
(笑)。
はい、トヨ先生は平塚中学の体育の先生でした。偶然この会でお会いしたわけですが。

作者：先日退職したおばあさんで集まったが、みんな足はよぼよぼでも先生が抜けなくて言うことは立派！意気軒昂だった。

長澤代表の歌
海風と白つめくさの花冠かぶらせる子
もうおらざれど

梅雨寒をこけしは子消しと誰が声か棚から落ちたこけし拾えば
三日前の言葉発酵してきたり耳汚ししを謝らねばと

■湘南の午後のひととき、一首ずつ時間をかけて丁寧にみていく。「ためらうは違うんじゃない?」「なだめるの方がいい?」「そこに可愛らしい声でころころと笑う童女のような代表の声も相まって、さらに気持ちのいい午後となる。一人ひとりの日常が垣間見られる歌に、皆さんの知恵と感性を重ねて、より伝わる歌へと。ひと月の間に詠んだ歌がさらに輝きを増し、よりよい健やかな明日へとつながっている。
(木戸敦子)

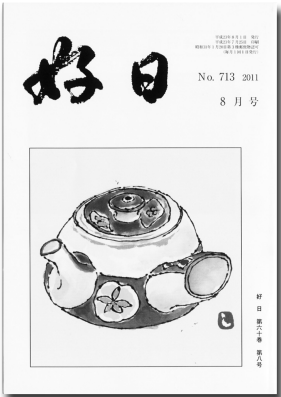
好日俳句会 東京句会

主宰 長峰竹芳さま
(東京都・江戸川区)

ここ「すみだ産業会館」は錦糸町駅南口の目の前「丸井」と同じビルの9階と拔群の利便性で、窓からは完成近所の「スカイツリー」も臨める。駅前には中央競馬の場外馬券売場、パチンコ店、演歌歌手のライブと、おじさん天国の様相も呈しているが、明治の時代にはここで伊藤左千夫が牛舎を構え牛乳の製造・販売を行なうとともに主宰誌「馬酔木」を創刊・発行したという街でもある。飲む打つそして詠う街、錦糸町で毎月第一土曜日に行われている「好日」の東京句会にお邪魔しました。

本日の出席者は23名、一人3句または6句提出の7句選(欠席投句も受付)。23人×7句=161句の披講を3人で行い、主宰の選句後、その句を選んだ方一名が講評をするとともに主宰が補足する。

◎高得点句より
花籠を涼しくまとも見舞ひけり 悦子
見舞う人の涼しい感じが出ている。



▲月刊誌「好日」は8月号で通巻713号

主宰：つい「ゆり」とか花の名前を入れなくなるが、上手くまともていて軽いいれどいい句。
炎天へ姿勢正してから歩く 輝子
いただいたから類想があるかもと思つたが、これから炎天に出ようとする気構えが見えて夏らしい句。

主宰：肩をすぼめて歩きたいところだが、頑張つて姿勢を正して歩くぞ!という炎天に向かう心構えが見える。
竹落葉昔ばなしの色で降る 君子
セピア色をイメージさせる、中七以下の「昔ばなしの色で降る」でいただいた。静けさのなかで語りかけるように散る、その音までも感じさせる。

主宰：中七がよかった、メルヘンチックで。ライオンの眠るしかない夏落葉 佳都子
お上手な方は動物園でもいい句ができるんだなーと。夏落葉にリアリティがあつて、ライオンの所在なさと同関わつて暑さをうまく表現している。

主宰：ライオンは寝てばかりで、見物人にいちいちお愛想を振りまいていられないものね。
夕涼し橋のかたちに灯の点り 悦子
「夕涼し」の季語が中七、下五と折り合いがよく、涼しさが伝わってくる。

主宰：「夕涼し」でひとつの気分を出し、そのあとで具体的にどういふもの



▲現代俳句協会の要職につかれするなど多忙な長峰主宰



かを出す。俳句の一つの形であり呼吸。いいと思う。

風通すだけの二階や花ざくろ 美佐子

家族が減り二階の部屋は普段使うこともなく、でも部屋に風を通さなくてはならない。日常的な、それでいて親御さんの寂しい気持ちを感じる句。首にあるタオルは私の夏ファッション

淑美

この暑さで首にタオルを巻いても汗がポタポタと…それを夏ファッションといたところが面白い。

主宰：おもしろいが夏ファッションが苦しい。春になったら春ファッション、秋には秋ファッションとなるので、工夫した方がいい。

名はひとつづつ形代も赤紙も 順子

形代の白い紙と赤紙、どうして今赤紙かと思ったら朝の「おひさま」というドラマでちょうど赤紙がきた。形代は自分で流すものだし赤紙は一方的にくるもの、そのあたりをうまく句にまわっている。

主宰：赤紙が唐突だし、随分と古い話でちょうど合わないな、という印象。

熟れ麦へバスが小さくなつてゆく 依子
バスが遠くなつていく、その構図が見

えるよう。ただ「へ」はどうなのか。

主宰：熟れ麦は言い過ぎ、麦秋で十分。目覚めたらお腹の上に本が伏せてあった、という昼寝の情景が目につくんだ。

主宰：読みたくて読んだというより、本でも読むかといった程度でもむしろさより眠気が勝ったということ。物との取り合わせが活きている。

猫科なりうつらうつらと夏至の昼君子 ぼーっとしている感じが、うつらうつらによくでている。

主宰：猫は食べて寝て水を飲んでまた寝る。猫のことを詠っているのか猫になぞらえて自分も食っちゃ寝していることを詠っているのか、二面性のある句。



▲東京、千葉、栃木、岡山と9つの句会がある「好日」

魚屋にうお煮る匂ひ祭笛 佳都子

魚屋は当然魚の匂いがするが、魚を煮る匂いと夏の祭笛の音色、下町の情緒あふれる雰囲気が出ています。

主宰：魚の総菜の匂いだろうね、今時の気分がでています。

打ち水のあがり確と両足に フミエ

水まきをする足にかかる感じが、最後足に水をかけてさっぱりするというのが見えるよう。

日盛や画紙の残る掲示板 健文

かつて活動が盛んな頃は色々な貼り紙がされていたが、今では貼るものもぼつりぼつりという程度。町並みが見えるというか、淋しさがでてくる。

主宰：物に即した俳句の強さとはこういうもの。中七以下でしっかり描写をしているので「日盛や」という抽象的な季語がいい。日盛のちよつと物憂い感じがでてくる。

梅漬けて時間たつぷり残りけり 澄江
毎年漬けている手慣れた方なので、今年も早く終わって時間がたつぷり残っちゃった、という余韻の残る情景が見えてきた。

主宰：毎年このことなので手順よくやって、あれ案外早く終わったということ。
女らに傘寿の日焼け褒めらるる ひろし
80歳の日焼けを「あなたたくましいわよ」などと、若い人ではなく案外同年代の女性に言われたのは、微笑ましいいい句。

主宰：「女性だと困るが、女らも」は、目下の者に使う言葉だから再考したところ。

作者：日焼けくらいのもので、褒められるのは(笑)。

ものを食ひながら見てゐる夕焼かな 健文

玄人っぽい句。食事では面白くないし「ものを食ひながら」が珍しいと思った。舌と目の両方で楽しんでる。

主宰：自分の家ではなく、町中か海岸近くのレストランで食事をしてる感じ。俳句は複雑な心境を詠む場合と何でもないようにさらりと詠う場合があるが、その境目をつかむのが難しい。

この句はどこか詩心に触れるところがありその境目をいつている。うまい人が作るとこ

ういうふうになる。



3時間という限られた時間の中で、採られた句、採られなかった句、120句すべてにあたるため、手際の良い進行係と主宰の江戸弁との掛け合いでサクサクと小気味よく進む。しっかりした組織と事前の備えが、来年4月には創刊60周年を迎えるという下支えになっているとお見受けした。各人の充実ぶりがありますの「好日」ぶりにつながる場所柄とは違い、ハイソな雰囲気奥方が多かったことも印象に残ったのでした。

(木戸敦子)

横瀬功さま

(新潟市・西区)

昨年1月、70歳の古稀を迎え、その記念の一つとして6年にわたるお遍路の道すがらを『お四国巡り 遍路のつづき』としてまとめられた横瀬功さんにお話をお聞きしました。

■なぜお遍路に出よう？

たまたま辰濃和男著『四国遍路』（岩波新書）を読み、その文章のあまりの流麗さに旅情が刺激されたことがきっかけ。「自転車や車もいいが、歩いた方が10倍意味がある」とあり、それなら最初から歩こう！ という好奇心から挑戦してみようと思った。

■本には時間と歩数、距離が詳細に記されていますが

旅に限らず、記録することは習慣というか「病膏肓に入る」状態で治らない（笑）。遍路の途中、二日連続で会った外国人に「あなたは今も書いている、



▲さもありません、お顔に充実ぶりがにじみ出ています！

昨日会ったときも書いていた」と言われたが、書いて歩いてまた書いて、これが自分のスタイル。宿に着けば、どんなに疲れていても日記と一組しかない下着の洗濯は欠かさなかった。

■なぜそこまで記録をするのでしょうか？

高校で英語の教師をしていたが、ある進学校に勤めていた頃15年の間に4人の自殺者が出た。半年間、筑波大学に研修に行かせてもらい大勢の不登校児や重篤な症状の子どもたちを目の当たりにした。何とか彼らの気持ちを理解したくて、講演会、ラジオの電話相談等を片っ端から録音してはそれを記録に起こした。録音して再度聞いて書くと、いかに人の話を聞き逃しているかがよくわかり、数倍の気づきがある。

■習慣になれば、書くことは苦ではない？

英国人のジョンソンという人が「おしゃべりは機敏な人をつくる、読書は人を深くする、書くことは人を正確に（exactly）する」と言っているが、本当にそうだと思う。書くことと書きっぱなしというのでは全く必ず読み返すから、物事をより広く多角的に見るチャンスになる。端から見れば書くことは孤独な作業に見えるかもしれないが、頭の中でキャッチボールをしたり、いろんな人を思い出したり、なかなか楽しい。

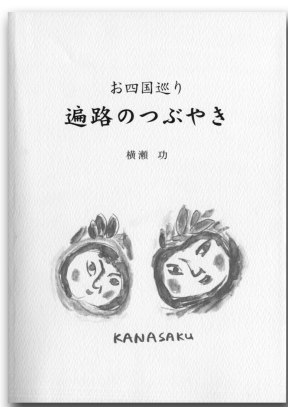
■道中はいろいろと？

お遍路道ではどこかで弘法大師に会える、という言い伝えがあるらしく、この人かな？ などと思いがち歩きながら、観音様、つまり優しい女性が

多かった。雪道、車をUターンして心配してくれた人、食事をした際、お金は受けとれないと言うので、帰ってから新潟の品物を送ったら、発砲スチロール2つ分の名産品を送ってきた食堂の女性……。思いもかけぬ好待遇を受け、今でもやりとりが続いている。私のような信仰心ゼロの者にとつて、お寺はみな同じようなもの（笑）、そこにやってくる「人」に興味がある。でも「なんでお遍路に？」などと聞かないことが不文律。何気ない会話でも皆さん実に温かい。お遍路はお産と同じで、しばらくすると痛みや辛さも忘れ、また歩きたくなるお遍路病にかかるのだとか。

■その病に？

どこか珍しいものを見たい、あわよくばそこでおもしろい人に出会いたい、この丘の向こうに何かあるのでは、という思いが強いの、それであれば別の場所に行きたい（笑）。山頭火いわく「人生即遍路」だそうだが、まさにそう。「旅情」という言葉ほど私を活性化させ、「旅愁」という言葉ほど人恋しさに駆り立てる言葉はない。北欧や中部ヨーロッパ、インドももう一度…と、



▲奥様が原稿を整え、長女・次女の挿絵が入った横瀬家全員参加の本

体が動く限りは旅をしたい。

■丘の向こうに何かがあったわけですね？

退職する際「私もとうとう定年です」と、20歳くらい歳上の先輩女性に挨拶をすると「あーら横瀬さん、60、70代は人生の華よ」と言われた。その言葉がすぐくうれしくて、そのとおりに生きよう、これからの人生の華にしようと思った。今、前半が終わり、あとは後半、先に先に花があることを楽しみにしている。

まずは、電話相談、被害者支援、精神対話士、ユース・アドバイザー等、今行っているボランティアを、もうしばらく続けたい。この世を生き難いと思っている人はたくさんいるが、ヴィクトール・E・フランクルの言葉「それでも人生にイエスと言う」、関わった人がそんな風に思うことが最終的な願い。人生、いろいろなことはあるが「富士山は一直線には登れない。一歩前進、二歩前進、ジクザクに進める人になりましょう」という尊敬する恩師、池政栄先生の想いを広めたいと思っている。

★高校時代の英語の先生とはいえ、この人生謳歌ぶりに拍手を送りたい。人間が好きで気は優しく力持ち、自称「ワールド寅さん」は内外問わず、興味の赴くままに行動する。どうやったらこの人と仲良くなれるだろうか、という尽きない人への興味は、自分の子に対してもそうなのだろうか。水泳の国体選手でもあった健康な体と、いつも傍らにいらっしやるお目付け役？の奥様に恵まれて、ますます花は大きく咲き続けている。（木戸敦子）

投稿作品



※今月も、沢山のすばらしい作品を投稿していただきました。今後も、みなさまの投稿をお待ちしております。次回掲載分は9月15日(木)締切です。

川柳



- 1 避暑地にてなどと小癪な便り来る
丸山芳夫(東京都)
- 2 この夏は木陰縁台持つ団扇
石原学(群馬県)
- 3 暮引きは天に任せて今日を生き
守屋高雄(岩手県)
- 4 強がりに反動が来た単帯
藤井碩子(山口県)
- 5 美味しさは哀しさを越す活き造り
中島久光(岩手県)
- 6 便利なる言葉想定外流行る
濱田イサオ(福岡県)
- 7 長生きし良きか悪しきか国の案
河合ヤスエ(大阪府)
- 8 明日には忘れる母と観る桜
竹村穂夫(大阪府)
- 9 少年が駆けると風がついてくる
勢藤隆(群馬県)
- 10 大阪都余所者ですが賛成よ
大川聡(新潟県)
- 11 伸び盛り孫に手をやく齢の高
羽田桐柳(群馬県)
- 12 ガス代が急に減つた倦怠期
松田重信(埼玉県)

- 13 食前にくすり忘れず食後にも
藤井北灯(福岡県)
- 14 矢印を信じてどこまでも歩く
岡本恵(茨城県)
- 15 聴き上手居てしゃべり手の株上る
野田明夢(新潟県)
- 16 綻びを直し直して着いた古希
鈴木義雄(福島県)
- 17 君と僕ハローワークの仲間だよ
原田英一(千葉県)
- 18 寮生の球蹴つてゐる小望月
津田忠彦(岡山県)
- 19 川柳にたっぷり浸かり恙ない
久本にい地(岡山県)
- 20 新鮮なものと朝市決めている
大江秋月(兵庫県)
- 21 本を読み旨い表現教えられ
松田義登(福岡県)
- 22 根回しの酒が利いたかい返事
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 23 墓碑のよう高層ビルのシルエツト
森本遊笑(兵庫県)
- 24 用足しは雨のまにまに急かされる
塚本良子(愛知県)
- 25 雨しとど買物時間あれば良い
近藤はつみ(福岡県)
- 26 朝起きて空気吸えるのあたりまえ
小山恵美子(大阪府)
- 27 人の道まさかの坂も口遊み
大橋絵代(千葉県)
- 28 象を殺すことを一度は思いけり
諏訪杜夫(埼玉県)
- 29 子を叱りやんわり包む親の愛
諸橋文男(新潟県)
- 30 手をひいてもらうのならば女医がいい
山崎一嘉(愛媛県)
- 31 冗談に本音があつてささる骨
大岩歌子(岡山県)

- 32 スーちゃんのほほ笑み返し贈り物
石山幸枝(新潟県)
- 33 忌憚なく言えば議論がまともならず
藤沢健二(千葉県)
- 34 病む妻に癒し術なく夜は更ける
戸田英夫(愛知県)
- 35 「揚げ羽」待ち日々青虫とらめつこ
奥那於子(大阪府)
- 36 歳ばかり取つてと叱るボクがいる
田澤宏(新潟県)
- 37 夏枯れに少ししみ出す文字拾う
野口昭夫(群馬県)
- 38 被災地視察軍手は持つて来ましたか
鈴木青古(茨城県)
- 39 食が減り年を感じるきのう今日
高井逸代(岡山県)
- 40 せいじ屋は復興言わずどを責め
野中よしみ(神奈川県)
- 41 水着まで縫った亡母の子魔法の子
中林恵子(大阪府)
- 42 兄が逝つた日雷一つ
奈倉染甫(愛知県)
- 43 この時世つけた名前は未来君
鈴木章(新潟県)
- 44 狭い庭孫の記念樹すくすくと
北川とこ(新潟県)
- 45 原発のつけを庶民にたれ流す
伊藤嘉枝子(東京都)

短歌



- 46 わびしさに向き合いながらもさわやかに出会いて想うシリアセミナー
櫻井文子(東京都)
- 47 もうすではじまつていた百年つづく
日本国と地震との全面戦争
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 48 国難にも政治ゴツコの永田町理性ある
国と世界称ふに
黒澤正行(福島県)
- 49 鈴懸の葉陰に光るものありて登校路
濡れて夏至となりたり
藤原昭三(滋賀県)
- 50 乾杯の盃に込めたる祈りをば新酒の
身には如何に飲み干す
村木尚(新潟県)
- 51 コンビニで借りたトイレの文字見れば
TOTOが逆でOTOT
齋藤忠弘(千葉県)
- 52 異国にてつい住処へ旅立ちし神父の
版画線描細やか
高橋邦子(高知県)
- 53 遠雷のごとき花火の音聞きて夕餉の
仕度の手を止むる
若月理依子(新潟県)
- 54 明るき子二時間あまりを見舞ひに來
て嬉しかったと振り返り去る
高須孝(愛知県)
- 55 かそかなるのこり螢の宴かな終ひのい
のちのともしびに似て
野木宗信(奈良県)
- 56 八ッ岳南へ眼を移すとき甲斐駒鋭し
ボール打ちつ、
土屋喜雄(山梨県)
- 57 出口なき原発の恐怖続くな孫娘の
ハワイでの挙式日迫る
木暮珣子(群馬県)
- 58 水底のごと雲海の底をゆく終の住処
は空中都市よ
宇都宮萬里(静岡県)
- 59 夜の浜の大き騒いで見れば火祭り
のこと若きら遊ぶ
鈴木清美(愛知県)
- 60 奥山の根曲がり竹の子の味噌汁の
味菌触りの良き
山本敏順(長野県)
- 61 食材にお金呉れたり父の日に娘に感
謝酒少し飲む
小暮昭司(群馬県)
- 62 「顔晴れ」といふ造語今被害地に最適
の一語ならむや
今井忠一(東京都)
- 63 蟠かまり無きが如しの陽は西に我れの
心も明日は晴を
村岡盛英(群馬県)

64 御影堂で琴音ひびくや五重の塔大師
誕生会善通寺にて
佐伯セツ子(香川県)

65 目の奥の底までも澄む童らと木の實の
森に昔をあそぶ 佐藤古城(埼玉県)

66 被災地と永田町とは雲泥とポラントイ
アいう両手を広げ
篠原三郎(静岡県)

67 ひとますを埋めるたびにわが胸のこ
とばのかけら指は吐き出す
寒川靖子(香川県)

68 久し振りクラスメートに会えるとは
予期せぬ電話に着のみそのまま
吉野成行(愛知県)

69 黒揚羽たゆたいたいながら消えゆきてや
がて鋼のようなゆうぐれ
北岡晃(兵庫県)

70 目に染みる汗ぬぐいつつ温度計ぐんぐ
ん伸びる今日は夏至なり
音喜多千津子(埼玉県)

71 漂泊の謂れ紐どく「勇と牧水」手繰れ
ば文運湧き出づる個性
西山悌三郎(高知県)

72 紅きドレスのヴァイオリン・ソロしな
やかに弓はね上げて弾き終わりたり
後藤美佐子(長崎県)

73 核持たず弱きな日本に四島は己が領
土とロシアは主張す
椎忠夫(神奈川県)

74 風呂呂場より蛍の灯り見つけた夜暗き
湯舟で暫し楽しむ
田中豊恵(新潟県)

75 梅雨去りて置いてけ堀の紫陽花等灼
け日に切と見拵ぐ其其
濱田深雪(新潟県)

76 植え揃いし田は残雪の武尊嶺の雲あ
がりゆく姿映しぬ
桑原謙一(群馬県)

77 断捨離といえど紫陽花切り難くしお
れるままに梅雨明けにけり
濱崎祥子(鹿児島県)

78 古稀すぎて人肌恋しぬむれぬ夜子宮
なきこと思い出しおり
岩崎令子(大阪府)

79 ペランダに立ちて見上ぐる満月は妻
の鏡の如く明かるし
大西敏正(神奈川県)

80 前かけて手を拭きながら亡き母があ
らわれそうな古民家を訪ふ
小笠原紗恵子(神奈川県)

俳句

81 君影草過ぎにし日々の美しく
鏡チエ子(山形県)

82 産土の森にこもれる椎の花
荻野りえ(兵庫県)

83 峡空の北斗夏闇の仏法僧
川口襄(埼玉県)

84 子は母を再び泣かす夕焼空
大曾根育代(埼玉県)

85 海狂ひ狂ひても咲く葎かな
関根千恵(埼玉県)

86 杉の秀揺らして薫る葛の花
星野三興(新潟県)

87 頬よせば玻璃をくもらすぞぞろ寒
美濃部絃三(新潟県)

88 母の日に優しさ届く宅急便
水落重武(新潟県)

89 風にのりくちなしの香や遠き人
野村牟人(東京都)

90 点滴のぼつりぼつりと梅雨深む
吉村筑紫(埼玉県)

91 夏来ればポリープ検査念を押す
忍正志(兵庫県)

92 魚にも昼寝の顔や箱眼鏡
井上静夫(栃木県)

93 病重き友を見舞ひし街薄暑
大輪靖宏(神奈川県)

94 薄暑光海女の素潜り美しき
武市愛子(大阪府)

95 少女早やをみなほの匂ひ梅雨の月
青木ケン子(埼玉県)

96 ジーパンの膝のすり切れ夏の風
佐瀬チエ子(神奈川県)

97 節電で主役に抜擢扇風機
長峰正晴(千葉県)

98 客去れば座布団叩く梅雨晴れ間
布目雅之(埼玉県)

99 夏の雲人果てし無く逝きにけり
小井寒九郎(三重県)

100 夏の朝根本中堂祈りゆく
山田幸代(兵庫県)

101 梅雨晴間心の襞に通す風
井原毬子(東京都)

102 噴煙に赤富士霞む地変かな
加用章勝(千葉県)

103 初蟬の声の濡れぬる木曾路かな
佐野和彦(静岡県)

104 夏祭少子化に泣く樽神輿
大竹憲弥(新潟県)

105 六月の雨に躊躇溢れをり
三ツ木宗一(東京都)

106 ふる里の川の匂ひの鮎を焼く
堅田秀子(東京都)

107 被災地の瓦礫の中に夏薊
檜山とり子(東京都)

108 にぎやかに田植したのは昭和のこと
山本直子(大阪府)

109 今生の別れはさくら妻逝けり
田中昶(鳥取県)

110 今生のいまが試練か梅雨滂沱
大谷伊佐男(埼玉県)

111 海にすぐ刈田四、五枚怒涛音
菊池シユン(青森県)

112 ドイツ語で歌える「第九卒業式」
久保和友(滋賀県)

113 孫帰る淋しさつもの西の空
佐竹章(宮城県)

114 臀いしさらす薄暑の楽しさに
山東爺(北海道)

115 濃密でふ言葉愛す花グリア
松嶋光秋(東京都)

116 どの児にも声かけて行く夏帽子
中嶋清子(佐賀県)

117 蛙田に夏の妖精赤とんぼ
須澤重雄(長野県)

118 退職を昨日に今日は夏帽
大島欽三(奈良県)

119 田均しの牛の貫禄泥田かな
五十嵐陸博(新潟県)

120 啓塾の池に溺るる天道虫
木村貞恵(静岡県)

121 得心の主婦完熟の西瓜買う
居原田連星(大阪府)

122 ワグナーを聴いて炎暑へ扉を押しぬ
新谷雄彦(広島県)

123 大雨の去つて浚漉船の行く
木下精(大阪府)

124 玉入れの声援高し若葉風
森ふく(千葉県)

125 横ばひの放射線量梅雨に入る
藤沢樹村(東京都)

126 さつき雨しみじみ慈雨と思ひけり
川崎洋吉(福岡県)

127 夏料理食細る背を気遣ひり
有坂馨園(福島県)

128 のつけからのろけ聞かされところてん
鈴木宥夫(千葉県)

129 暮るときには亡父に見へもする
伊藤修敬(三重県)

130 紫の濃さきわだちて花菖蒲
副島加代子(宮城県)

- 131 アマリリス繰り言聞いてくれますか
大阿久雅子(東京都)
- 132 指折って少女の一句水中花
炭崎博(滋賀県)
- 133 母の日や上寿に子らの祝ひ唄
大久保アヤ子(東京都)
- 134 村さなぶりひとす越中米どころ
関谷秀二(愛知県)
- 135 節電という世になりし銭葵
竹澤茂子(大阪府)
- 136 それなりに生きたつもりのかたつむり
岩永登茂子(大阪府)
- 137 窓少しあけて朝寝や青葉風
三津木俊幸(千葉県)
- 138 箸置も器もガラス川床料理
勝田久美(大阪府)
- 139 梅雨の月地囃より消える街の音
小野寺裕子(宮城県)
- 140 伊賀線の忍者電車も更衣
中森儀雄(三重県)
- 141 初孫は桜色なり祭り笛
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 142 働き者だらけの村や油照
北野耕兵(千葉県)
- 143 ふるさとの風景にある山桜桃
青木凉子(埼玉県)
- 144 能楽堂出づれば疏水の緑雨かな
北嶋八重(京都府)
- 145 常夜灯いまだ消えざり朝曇
宇田川正雄(埼玉県)
- 146 園児らの花を持ち寄り祈りの日
須田洋子(埼玉県)
- 147 大地震異空間なるソーダ水
安木沢修風(新潟県)
- 148 青嵐娘のドレス透けて来し
川島久子(高知県)
- 149 強風に空蟬の黙飛び去りぬ
油谷郷史(兵庫県)
-
- 150 白紫陽花白昼清し花秘めて
佐野しづ子(愛知県)
- 151 まいまい井汲みたき水は夏の空
百花清(埼玉県)
- 152 ひんやりとふと侘しくて春惜しむ
竹本美美子(新潟県)
- 153 倒れても立葵たり咲きに咲く
岩村昇(神奈川県)
- 154 傅きを強いられにる夏座敷
浦橋克行(兵庫県)
- 155 朝もやの中よ来たり時鳥
寺岡文生(静岡県)
- 156 きりぎしに一瀑のごと花茨
木村真澄(埼玉県)
- 157 しなやかに鯉が鯉追ふ薄暑光
藤田照代(岡山県)
- 158 湯に浸り何事もなく春終る
辻升人(東京都)
- 159 郭公の声はすれども姿なし
田中恵美子(山形県)
- 160 さわやかな風むらさきに花菖蒲
内河邦久(東京都)
- 161 真向に湖の蒼さや夏めく日
梶鴻風(北海道)
- 162 夕端居見返り美人がとほつたよな
原田麦吹(埼玉県)
- 163 胸を張り核を告発朴の花
沢田稲花(山形県)
- 164 梵鐘の一打のこもる走り梅雨
阿部徳夫(宮城県)
- 165 螢の夜ドラの音聞こゆ仙台港
柳澤京子(宮城県)
- 166 揚雲雀底なし曇天なに見て来
阿部幸子(宮城県)
- 167 はんなりと三味線片手にうば桜
阿部澄江(宮城県)
- 168 持ち上げて蛍袋の神秘観る
小林七重(新潟県)
-
- 169 ひそやかに住みたる家の鳶青し
山内孝子(神奈川県)
- 170 津波後も網を吊らせる青嵐
千代田俳徒(東京都)
- 171 しとど降る紫陽花艶を増しにけり
村上千代(大阪府)
- 172 大雷雨天安門を通りけり
小島岳青(新潟県)
- 173 校庭に跳び箱ひとつ炎天下
西口東治(大阪府)
- 174 若葉光妻の自走の車椅子
野原香雪(北海道)
- 175 夏告げしカフェテリアの大時計
堀田寿美子(北海道)
- 176 被災地のがれきの下で百合の芽よ
杉村美保子(岩手県)
- 177 糸蜻蛉つるぶ水面の明かるかり
堀井和(神奈川県)
- 178 饒舌な女三人薔薇の花
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 179 夕さりの藤房の揺れ風のまま
駒場京子(神奈川県)
- 180 母衣に雨あはれ俯く敦盛草
上村元義(神奈川県)
- 181 孫遊ぶ梅雨の晴れ間の水溜り
早川述史(愛知県)
- 182 逃げ水を追って昭和にまざれ込む
関根瑤華(東京都)
- 183 郭公の尾振り首振り鳴くことよ
津布久信雄(東京都)
- 184 大空へ声わきあがる運動会
高松愛(神奈川県)
- 185 緑風や妹と二人のカフェテラス
神作洗江(埼玉県)
- 186 髪型をヘップバーンにしサングラス
湯浅芳郎(岡山県)
- 187 夏の海喜怒哀楽の全て抱く
橋本世紀男(東京都)
-
- 188 焼鮎の水を跳ねたる容かな
遠藤和彦(埼玉県)
- 189 胸中は青春なるも麦の秋
中野博夫(埼玉県)
- 190 復活祭白根浅間も雪化粧
藤田峰石(群馬県)
- 191 今上の明滅哀し螢鳥賊
城山憲三(愛知県)
- 192 ささがねの蜘蛛天井に住む家族
有田裕子(北海道)
- 193 紫陽花の花をフトンに寝てみたし
岡弘子(埼玉県)
- 194 息深くして万緑に佇めり
羽根田明(神奈川県)
- 195 片陰や佳人の背追ふ瘦せた猫
緑川禎男(埼玉県)
- 196 竹垣の雨後のかがやき花石榴
中田文子(大阪府)
- 197 酒じみも懐し父の白餅
小西四郎(東京都)
- 198 梅雨晴の町流し行く選挙カー
増田信雄(埼玉県)
- 199 何事もなかりしさまに鳥帰る
能條憲夫(神奈川県)
- 200 草笛や遠き日のこと父のこと
高松ゆか(神奈川県)
- 201 密談のあと開け放つ夏座敷
今井勝子(新潟県)
- 202 車椅子共に老いたり藤の花
秋谷静子(茨城県)
- 203 目借り時埴輪も同じ欠伸して
松山知恵子(宮城県)
- 204 爆心地心を許すべからずや
福岡悟(東京都)
- 205 湧く心少しまだあり夏来たる
村松知津子(大阪府)
- 206 仏前へ豆飯匂ふ二階かな
福田和子(東京都)



投稿作品

- 207 ゆくほどに間に誘わる螢の夜
名取美枝子(千葉県)
- 208 花衣脱ぎて老母のひとりごと
喜龍けん(滋賀県)
- 209 大夕焼ホームシツクに光る海
大橋恒次(新潟県)
- 210 太陽の怒るが如き炎暑かな
田中美智子(埼玉県)
- 211 夫に無き齡生かされ祭鱧
堀木和子(大阪府)
- 212 復興へ槌音忙し梅雨晴間
小野正光(宮城県)
- 213 ゼラニウムかな文字多き娘のメール
堀井醉人(茨城県)
- 214 旅終へて一服の茶や更衣
古谷力(東京都)
- 215 サングラスかけ父母のこと忘れけり
鈴木蝶次(宮城県)
- 216 虫送り川面に映る松明火
中村和弘(愛知県)
- 217 夢追うて冷酒としゃれて屋形船
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 218 夏風邪や患者につけるパーコード
中野勝子(鹿児島県)
- 219 避難所の筍飯の匂ひかな
浅野信廣(宮城県)
- 220 朝市の茄子の刺にさされけり
寺尾令子(東京都)
- 221 十分に咲ききったかや花菖蒲
富樫和子(山形県)
- 222 最上川濁流となり梅雨走る
山川幸子(東京都)
- 223 八重咲の十葉一茎東司窓
菅井文男(新潟県)
- 224 子等植へし足跡残る青田風
清まさじ(静岡県)
- 225 鷺草の吾が魂載せて旅立たむ
吉村充治(埼玉県)
-
- 226 音階を奏でる夕空ほととぎす
中目サヨ子(鹿児島県)
- 227 蓮池や極楽浄土の音を待つ
大塚徳子(埼玉県)
- 228 いづこかへ早瀬を渡る黒揚羽
鈴木清子(埼玉県)
- 229 玉葱の軒下に吊り落ちる音
橋本まこと(栃木県)
- 230 三川を一つに大河夏へ行く
中山日出子(大阪府)
- 231 夏めくや馬の蹄の軽やかに
小林紀美子(東京都)
- 232 万緑に抱かれ瀑布の轟けり
池本勇(大阪府)
- 233 湾曲の火口真近や閑古鳥
神一男(静岡県)
- 234 七夕や腹の子無事に生まれてと
星一子(神奈川県)
- 235 広げたる江戸の古地図や青簾
橋本良子(埼玉県)
- 236 瓦礫山飛び越えていく梅雨の蝶
棚橋麗未(東京都)
- 237 神官に倣ひてくぐる茅の輪かな
杉浦俊雄(静岡県)
- 238 一匹とは淋しき数よ飛ぶはたる
五十嵐勝敏(新潟県)
- 239 幼児の伸びる手の先ねちればな
石川郁子(埼玉県)
- 240 天翔る句友に幸あれ春の虹
萬濃その子(千葉県)
- 241 川波の吹きもどされる盆の月
遠藤きん子(神奈川県)
- 242 オカリナの音色響けり雲の峰
石戸幸子(埼玉県)
- 243 沖繩のいくさの記憶麦の秋
清水伶一(神奈川県)
- 244 連獅子の舞いさながらに今年竹
佐々木トモ(宮城県)
-
- 245 追憶に揺れる向日葵風に聞く
中野豊彦(東京都)
- 246 きらきらと滴り落ちる深緑
西條公雄(埼玉県)
- 247 妻逝きて心臓揺する青風
佐瀬輝禿(千葉県)
- 248 濡れそぼつて女の裸像沙羅の花
夏目満子(東京都)
- 249 夕日落つ瓦礫の浜に今日も亦
磯山陽吉(東京都)
- 250 海燕人手に渡る千枚田
小山たけし(埼玉県)
- 251 一軒家つみこみたる夏木立
重原昇(新潟県)
- 252 火取虫交されてゐて世の境
安部龍太(山梨県)
- 253 濃紫水面に溶かし菖蒲園
岡村君枝(茨城県)
- 254 みどり児の寝顔の愛し団扇風
勝昭子(鹿児島県)
- 255 裏盆会町の踊りの灯を点し
齊藤安弘(神奈川県)
- 256 肩車せし子どもの親祭り来る
田島星景子(宮城県)
- 257 復興はまだ程遠し半夏雨
延原令岱(岡山県)
- 258 行々子過疎化の街を離すかに
西川孝子(奈良県)
- 259 析咲くや菊の紋ある木地師墓碑
吉澤昌美(長野県)
- 260 望郷へ線路が伸びる夏の雲
田野井一夫(栃木県)
- 261 江戸小物売りるる露地の藍浴衣
村上克哉(東京都)
- 262 紫陽花にもう一雨の彩を待ち
磯部力(新潟県)
- 263 大暑なり北に真向かふ鬼瓦
本間七窪子(山形県)
-
- 264 豌豆をむくや女は戦わず
堀たかこ(大阪府)
- 265 送られ来うれし絆の新茶かな
石井美智子(埼玉県)
- 266 行草書火を噴くごとし恋螢
針ヶ谷里三(東京都)
- 267 ちまちまと生きるな男弁慶草
森崎榮久(岡山県)
- 268 鷺草の翔び立つ構え夕明り
鏡たか子(山形県)
- 269 遠近ゆポロシャツ届く父の日や
宮川昭男(高知県)
- 270 初蛩湖底の村へ灯をこぼす
大下志峰(福井県)
- 271 省エネや戦後にもどり汗をかく
近藤美好(新潟県)
- 272 世のためと節電の夏過ごしけり
針生清(千葉県)
- 273 葉桜や子らとの距離を計りかね
木田亜津子(兵庫県)
- 274 初蛩黄色の当番リユックくる
西脇美智子(新潟県)
- 275 サイダーの先の海峡なぎにけり
井上泰至(神奈川県)
- 276 もう少し辛味のほしき溽暑かな
佐藤信(神奈川県)
- 277 雲灼くるあの日のままに妻忌来
中村正博(埼玉県)
- 278 父の日や来客用のコーヒータ
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 279 羚羊の道を進みて採るミズナ
佐藤源一(新潟県)
- 280 草苗の夫少年の顔となる
井田由利子(宮城県)
- 281 短夜の短かき夢を惜しみけり
上谷すみ多(神奈川県)
- 282 遠ざかる甲斐の山やま大夕焼
野中信夫(東京都)

283 図書室の窓全開の青葉風 鈴木与平(宮城県)

284 一人には一人の楽あり冷やっこ 芋木匡子(滋賀県)

285 川風を袂に入れて夕涼み 井出甲子雄(長野県)



6月号の 心に残った 作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返をお寄せ頂きありがとうございます。ありがとうございました。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》 209 グランドに深き礼して卒業す 岩永登茂子(大阪府)

・汗を流した部活動の少年の様に思います。思い出のグラウンドに礼して胸いつぱい。
木村貞恵(静岡県)・野球部が陸上部かなんとしても青春を燃やした校庭に感謝しての卒業、とは光ります。鈴木岑夫(千葉県)・喜怒哀楽を共に過した学び舎に哀惜の意を感じた。佐野しづ子(愛知県)・在校中春夏秋冬培ってくれた学友、先生諸々へ感謝 原田麦吹(埼玉県)・学業もさること乍らグラウンドで育てられた子の感謝をうまく詠まれている。堀井和(神奈川県)・礼儀正しいではないか。吉田ひろし(愛知県)・運動部だったのでしょうか。過ぎた才月に万感の思いが伝わってきます。秋谷静子(茨城県)・私も陸上の選手

だったので気持伝わります。堀井酔人(茨城県)・部活動に明けくれた生徒さんの一途な青春に拍手です。中七がいい。浅野信廣(宮城県)・何のスポーツをしたのか？初々しい。本間七穂子(山形県)・野球少年か、少年の姿と心が見え、感動。孫と重なる。宮川昭男(高知県)・サッカー少年が深き礼に万感の思をいづく姿、よき息子が孫かうらやまし。西脇美智子(新潟県)・「深き礼」がさわやか。佐藤信(神奈川県)

【自句自解】

息子二人共小学校から大学まで野球クラブに入部して居り、試合は勿論、練習後もグラウンドに礼をしていました。行方不明になった一個のボールを深夜まで全員で探したこともありました。卒業間近の最後の試合が終わった時、監督、コーチ、父兄の方々最後にグラウンドにおじぎをしました。私はもう応援に行くこともないのだと思うと一抹の寂寥感で胸にこみあげるものがあり、その思いを句に致しました。

《短歌》

22 東日本風花舞い散る港町般若心経響いて止まず 阿部澄江(宮城県)

・人は弱き者、心経を唱える人・老人達の藁をも掴む心情を詠んで妙 藤原昭三(滋賀県)・あまりにも多い犠牲者にかける言葉がみつからず唯合掌。齋藤忠弘(千葉県)・「般若心経響いて止まず」がよい 宇都宮萬里(静岡県)

30 泥の手がしわ深き手が見つけたる写真をぬぐうがれきの中で 桑原謙一(群馬県)

・身内の写真でしようかじんときます。山本敏順(長野県)・震災で肉親の手懸りを探すせない姿が我が事の様にな

しい。堀田寿美子(北海道)・東日本大震災の一首、この光景は二度とあるな！北岡晃(兵庫県)・具体的な表現がその場を想像させるようで彷彿感のある一首でした。後藤美佐子(長崎県)

《川柳》

44 生活が荒れていますね冷蔵庫 丸山芳夫(東京都)

・同じ気持ちだから 石山幸枝(新潟県)・中を見れば：デス 鈴木青古(茨城県)・妻を亡くしまして実感でございませ。佐瀬輝禿(千葉県)・油断するとすぐ：反省してませ。中林恵子(大阪府)

51 まわり道しながら心広くなり 守屋高雄(岩手県)

・人生論だと思ふ。紆余曲折を経て苦も楽もかみしめてああ生きてきたと実感する。忍正志(兵庫県)・回り道をムダ事と感ずる前に心のスキマへ来た広い悟りは貴重 諏訪杜夫(埼玉県)ほか

120 故郷は海に流れてつばくらめ 井上静夫(栃木県)

・震災地の故郷へのエッセジー 大曾根育代(埼玉県)・津波禍の情景をうまく詠んでいる 星野三興(新潟県)・小さな生命の先に深重の海が見え、慟哭が伝わります。新谷雄彦(広島県)・故郷は生きゆく基盤！これを流失したら生きる土台がない燕(自然)はそれでも平然と生きる 鈴木清美(愛知県)・私の故郷も海に流れました。心情が理解できる句です。山内孝子(神奈川県)・つなみによつて古巣がなくなつてしまつた。杉村美保子(岩手県)・さりげなく、震災をうたつています。奥

那於子(大阪府)・3・11の天津波の後の

惨場、あの瓦礫の山の一刻も早い復興を希う。棚橋麗未(東京都)・私も故郷気仙沼を訪ね光景にびつくり。同感です。田島星景子(宮城県)・海に流れての表現に限りない哀しさを感ずる。木田亜津子(兵庫県)

95 春耕や子に残すべきこの山河 渡辺茫子(千葉県)

・減反のふる里をしみじみと思ひいうかべ強い底力を貰いました。堅田秀子(東京都)・それぞれの人の心にある故郷を大切に思う気持ち、震災を機に深く感じた。石戸幸子(埼玉県)・今は農業を継ぐ若者が少なくなる時代すばらしい日本の山河を残してほしい。勝昭子(鹿児島県)・春耕しつづ、愛する子孫にこの故郷を無事に残したいという大地、子に対する愛が伝わる。大下志峰(福井県)

126 紫陽花や喜怒哀楽の七変化 橋本世紀男(東京都)

・誌と同じ名は偶然でしょうか？「喜怒哀楽」の言をあいさいの花の色に託されてやさしい感じと思ひました。関根千恵(埼玉県)・紫陽花の七変化に「喜怒哀楽」の雑誌名を読み作者の心を表現している 水落重式(新潟県)・政治屋の七変化を思い出す 濱田イサオ(福岡県)・本誌への挨拶句か？人世は喜怒哀楽の七変化そのもの。井上静夫(栃木県)・紫陽花の色の変化に喜怒哀楽を見たところに発見がある。佐野和彦(静岡県)・人間の種々の感情を紫陽花の変化にたとえた 藤田照代(岡山県)・紫陽花の色の変化する様は色それぞれに人生における喜怒哀楽を表現している。早川述史(愛知県)

※今後もふるつてご投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q.とっておきの「暑さ対策」を教えてください。
涼しく過ごす工夫の数々です。
無理せず、元気でこの夏を乗り切りましょう。



●汗をかく

・たつぷり汗をかいて(タオルを首に巻いて)そしてシャワーです。

星一子(神奈川県)

・ドンドシ出歩いて汗をかいた後、風呂入り：
木下精(大阪府)

・汗たらたら流しながら暑いコーヒー飲んだあとシャワーをあびる快感
岩崎令子(大阪府)

●衣服

・夏場は下駄を愛用している

竹村穂夫(大阪府)

・行儀は悪いがランニングと短パンで過します
浅野信廣(宮城県)

・手作りの布ぞうり、最高です

黒田千栄子(神奈川県)

・男なら日本の文化ステテコが良い。他国の文化に左右されるな
黒澤正行(福島県)

・アロハシャツ
塚原将元(神奈川県)

・家では裸で過す
吉村筑紫(埼玉県)

・タオルを帯状にしておき、その中に小型のアイソノンを入れ首に巻く
森崎榮久(岡山県)

・越中ふんどし
戸田英夫(愛知県)

●風通しをよくする
・稲田を巡って涼しい風に会います

大江秋月(兵庫県)

・我が家は四方山です。木の間に洩れる自然の風が一番です
延原令岱(岡山県)

・海岸へ出て夕涼みします
中村和弘(愛知県)

・部屋の風通しを良くし余計なものはおかないようにしています
秋谷静子(茨城県)

・母の田舎。古い家なので天上も高く、辺りが緑でエアコンも要らない位空気が涼しい
川島久子(高知県)

●打ち水
・打ち水でしようか
羽田桐柳(群馬県)

・庭先に水を打ち夕涼み、浴衣を着てうちわ風
須澤重雄(長野県)

●グリーンカーテン・植物
・この夏は頼りにしてるゼゴヤ君
磯山陽吉(東京都)

・観葉植物をふやします
石山幸枝(新潟県)

・緑のカーテン(2階のベランダから庭石の間に張ったネットいっぱい朝顔・ゴーヤ・きゅうり等が蔓を伸ばし青葉を繁らせる。朝夕の撒水がさらに涼しさを倍加してくれます。
神田九十九(東京都)

・緑のカーテンを作って自然の風を呼びたい
勝昭子(鹿児島県)

・日除けに五・六年前からゴーヤを植えて緑陰と収穫を楽しんでいます

●心持ち

佐野しづ子(愛知県)

・「暑い暑い」と口に出して言わないこと
北嶋八重(京都府)

・夏とは暑い、あまり深く考えないこと
濱田イサオ(福岡県)

・昭和一桁生れ。じつと耐えます
大谷伊佐男(埼玉県)

・ただ、じつと静かにしています
美濃部紘三(新潟県)

・ただひたすら寝ころぶ
大輪靖宏(神奈川県)

・何をやるにもとにかく急がない、あせらない。これでかなり涼しい顔でいられます
関根瑤華(東京都)

・趣味(例えば洋裁とか読書)に熱中して暑さを忘れる
山田幸代(兵庫県)

・心に思っていることを思いきり吐露して身軽になること
藤井碩子(山口県)

・無理しないだけ
清水伶一(神奈川県)

●お酒
・呑んで呑んで眠る
堀井酔人(茨城県)

・甘酒を作っておいて冷して飲みます。
美味しいですよ
木村貞恵(静岡県)

・仕事から帰って家で飲む冷酒。もちろん越後の酒が良い
中野博夫(埼玉県)

・風呂上り焼酎のオンザロックを片手に

俳書を読みます
橋本世紀男(東京都)

・とっておいた風呂上りの冷えた缶ビールでしょう
炭崎博(滋賀県)

・ひたすら焼酎を呑む！
請関邦俊(埼玉県)

・やはりビールですね
小野正光(宮城県)

・何と言ってもガンガン冷えた缶ビールです
阿部澄江(宮城県)

・端居して何といつてもビールです
佐藤信(神奈川県)

・冷えたビールしかないっしょ
勢藤隆(群馬県)

●飲み物

・水を飲む
竹本惇子(山口県)

・矢張り十分に水分を摂取し夏バテせず三度の食事をとる
加用文美(千葉県)

・よくお茶(十葉茶)を飲んで一日一日を過しています
竹内ハヤ子(埼玉県)

・いつもより熱めのお茶をゆつくりと飲む
田澤宏(新潟県)

・庭のみじと山ぼうしの間に置いたイスでティータイム
富樫和子(山形県)

・梅酢をのべて飲みます
橋本まこと(栃木県)

●冷たいもの
・子等と食べる氷菓
星野三興(新潟県)

・レモンの輪切りを入れてレモンウォーター

A Q U E S T I O N N A I R E

- ・アイスコーヒーにつめたいスイーツ。冷えたお部屋で大好きな映画アコガレの時間です 岡本恵(茨城県)
- ・水のまるかじり 夏はこれに限る 北岡晃(兵庫県)
- ・アイスでクールダウン♪ 大橋絵代(千葉県)
- ・日盛りを避け時には心太を食すを至福のときなり 上村元義(神奈川県)
- ・水を口にくぐむ 石川郁子(埼玉県)
- ・手作りのしそジュースのあざやかな色！水うかべて涼しく飲めばさらに清やか!! 遠藤きん子(神奈川県)
- ・製氷皿にハーブの水を作ってアイスクリーム代りに食べる 石戸幸子(埼玉県)
- 食器を変える**
 - ・食器は全て変更、ガラス製、竹製…と。涼しい色に 勝田久美(大阪府)
 - ・ガラスの器にトッピングを工夫しておそうめんをいただきます 中山日出子(大阪府)
- 住まいを夏仕様**
 - ・窓辺に幾種類かの朝顔を滑らせ上下自由の竹製スタレを下げている。内外から花を觀賞できる 相馬竹浪(新潟県)
 - ・わが家は西に梨林があります。戸を開ければ夏の涼しさは格別です 須田洋子(埼玉県)
 - ・家中にスタレ、洗い物の残り水をヨシズに打ち水一瞬「あゝ気持ちいい」と口から出ます。後は丸亀団扇をどうぞ(笑) 佐伯セツ子(香川県)

- ・すだれで対処してクーラーなしの暮らしを夢みています。毎日検針し今は節電十五パーセントを達成しております 堀井和(神奈川県)
- ・節電の意味からもアミドをはめカヤをつる 諸橋文男(新潟県)
- ・ブルーのカーテンとシート、海の上を走る日本丸の大写真…等々で変える六月から九月迄、目からも涼しい寝室でぐっすり眠ること 岡弘子(埼玉県)
- ・スタレと風鈴 高松ゆか(神奈川県)
- ・窓々にすだれを下げ西側にはゴーヤの緑のカーテン庭に大きな木があるので涼しい方かも 田中美智子(埼玉県)
- ・窓と言う窓を全開 田島星景子(宮城県)
- 森林浴**
 - ・公園の散歩道、緑一色のトンネル、左右に樹木群、歩側には湖、涼を受けゆつくり散歩すること 早川述史(愛知県)
 - ・省エネの為、森林浴、夕涼み 大島欽三(奈良県)
 - ・波音や川のせせらぎを聴き、只管聴覚に頼る 三ツ木宗一(東京都)
 - ・近くの風光明媚な入野松原で森林浴をするぐらい 宮川昭男(高知県)
 - ・緑陰の読書 湯浅芳郎(岡山県)
 - ・林、森に入って俳句を作る！ 小島岳青(新潟県)
 - ・近くの山のふもとや少しでも標高のある所へ出かけています 後藤美佐子(長崎県)

- 避暑**
 - ・できるだけ木陰で過ごす 緑川禎男(埼玉県)
 - ・沢歩き 新谷雄彦(広島県)
 - ・木陰で本を読む 高橋邦子(高知県)
 - ・緑蔭でのサイクリング。例えば札の森あたりで 居原田連星(大阪府)
 - ・浜茶屋避暑!!泳いだり読書したり等ゆつたりと!! 北川とこ(新潟県)
- 寝やすくなる**
 - ・寝苦しい夜、保冷剤をタオルに包んで首にあてて寝ればエアコンいらす 若月理依子(新潟県)
 - ・暑くて寝苦しい夜はあらかじめ敷おとんの上にアイスノン等をのせて冷しておく 木田亜津子(兵庫県)
- 生活の時間帯をずらす**
 - ・なるべく朝のすずしい頃に物事をやりとげること 中嶋清子(佐賀県)
 - ・私もライフスタイルを夏時間に 塚本良子(愛知県)
 - ・早寝早起き早散歩 千代田栄次(東京都)
 - ・早朝のウォーキング。花鉢に水を与えらることです 杉村美保子(岩手県)
 - ・三度の食事をとること。献立も考えて 中田文子(大阪府)
 - ・栄養を考えて「食べ過ぎない」ことを第一に、運動と睡眠。趣味でストレスを発散 能條憲夫(神奈川県)
 - ・早朝、午前中にほとんどの家事を済ますことです 山崎鶴恵(鹿児島県)
- 入浴**
 - ・シャワーを浴びて扇風機にすぐ当たること 竹澤茂子(大阪府)

- ・年寄りの冷や水といふなかれ。それは水風呂 百花清(埼玉県)
- ・とにかく軽装に徹し日に何回も入浴します 佐藤政實(埼玉県)
- ・朝からたらいに水をとっておき暑くなったらこれに入り涼をとります 梶鴻風(北海道)
- ・熱いシャワーを浴びる 津布久信雄(東京都)
- ・お風呂に張ったお湯を抜かず一日に何回か入ります(老人なので) 村松知津子(大阪府)
- ・昼食の前後にシャワーを。安直ながらこれが一番 奈倉楽甫(愛知県)
- ・太陽湯のお湯で一日5回湯あびします。これが一番!! 葺木匡子(滋賀県)
- 昼寝**
 - ・琵琶湖畔のアズマヤで昼寝しています 久保和友(滋賀県)
 - ・居久根から来る風で御昼寝最高です 阿部幸子(宮城県)
 - ・浜辺の松林の中で昼寝すること 古谷力(東京都)
 - ・板の間に寝ござ一枚で昼寝する 近藤美好(新潟県)
- その他**
 - ・なるべくクーラーをつけずに扇子か扇風機で過します 浦橋克行(兵庫県)
 - ・涼しく感じるアロマオイルなど利用したいと思います 小山恵美子(大阪府)
 - ・額に貼る「ピタット」である 阿部徳夫(宮城県)
 - ・タンスの 칸に好きな絵柄のウチワを差しておきます 村上千代(大阪府)

新セット「ひととセット」ができました!

この度「朱鷺めきセット」に続くセット商品第2弾、「ひととセット」が完成しました! 過去の作品をひもとき…と思いつつ、時ばかりが経ってしまった方。句や歌はたくさん作った…でも、年齢を重ねるごとに、まとめることは難しいと思っている方。そのような方たちにおすすめのセットです。

内容／新書判(103×182mm) 50冊 並製本

折返し表紙(帯付)

1ページ1句(首)の計100句(首)

+あとがき、著者略歴

価格は88,000円(お友達価格77,000円。2人以上で同時にお申し込みの場合)。

表紙デザインも数種類の中から選ぶだけなので、「なんだかデザインのことを考えるのはメンドクサイ…」という方にもおすすめです。

部数を変更することも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。



「花咲かせよう」プロジェクト ご協力に深謝いたします

喜怒哀楽6月号でお知らせした「花咲かせよう」プロジェクトに、多くのご賛同をいただき誠にありがとうございました。

これは、この度の東日本大震災を受け、できることを少しでも具体的な形で示していきたいということで、「蓮根」の柄の「2012年手帖」「自由手帖」「手ぬぐい」と「ご縁ブック」の売り上げの一部を被災地に寄付するものです。

製品のお届けは10月下旬(2012年手帖)、11月下旬(自由手帖、手ぬぐい、ご縁ブック)を予定しておりますので、今しばらくお待ちください。「小さいことでも、できること」、今後「花咲かせよう」プロジェクトの第2弾も展開予定です。

夕日俳句大賞 ご投稿ありがとうございました!

今年で9回目を数える「夕日俳句大賞」は978句のご投稿をいただき、大賞には島松柏さま(宮城県)の「瓦礫にも明日を告ぐる大夕焼」が選ばれました。ご投稿に感謝いたしますとともに、ご投稿者全員の作品が掲載された『夕日を詠みたいⅨ』は8月末の発送を予定しております。



「お暇なら見て よね」HP内に ブログを開設

当社のホームページ内にブログを開設しました。ブログとは、継続して更新される日記形式の記事のことで、スタッフ一同、平日、毎日の更新を目標に日常をリアルに(!?)描き出します。ぜひ、お楽しみに!

ポストカード好評発売中!

毎回ご好評をいただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各シーズン)。今回は秋バージョンより「ほおずき」を同封いたしました。お気に召していただいた方は、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手と一緒に封書にてお申し込みください。**



スタッフの 一言

Q. とっておきの 暑さ対策

木戸 敦子



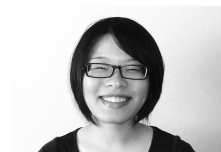
今夏購入した冷却スカーフは巻くとCAみたい♪と気をよくしていたが、水を含むので臭くなる難点あり。やっぱり冷えたビールをたらふく飲み暑さもわからず気絶して寝る!に限る。

古川 久美子



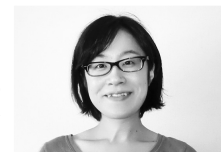
暑さ対策……。基本的に自室にはエアコン等ないので、扇風機で耐えるのみ……。最近は仕事にもワンピース等涼しげな恰好が心がけています。長袖は常に携帯していますが……。

菅 真理子



空間の印象を大きく左右するもの、それは音楽!ということで、涼やかなクラシックを流しています。気温が上昇しても、どこか涼しい場所にいるように気取って自分をごまかし…(笑)

仲由 真実



風の通り道に風鈴をさげます。南部鉄の高いチリンチリーンという音を聞きながら冷やしたスイカを食べる。少しだけ暑さを忘れる、ように努力したいと思えます。

上村 真智子



夏はやっぱり海! 自転車で人の少ない海辺に行き、少し泳ぎ、青い空と入道雲そして横切る船を見ながらビール!!! 風に吹かれて気分は最高です。一見暑そうだけど実は涼しい!

金子 ゆり子



常にペットボトルに水を入れて凍らせて、冷たい水を飲むのみ。2本は常に持っています。因みに我が家はまわりに木が生い茂っているためか、そんなに暑さを感じない。

石山 由希子



毎夏ビールを飲んだ後アイスを食べるはおなかを壊していました。今年も既に4、5回壊していますが、懲りません。暑さ対策? 工夫をしても苦しい毎日です。

山田 千秋



もしクーラーをつけたら、全員そこに集合する!…夜は愛犬(冷地仕様)が暑がるので、私達夫婦が愛犬の部屋に移動してクーラーをつけたり消したりして寝ています。

吉田 瞳



ストールと見せかけ、中に保冷剤を入れ首もとを冷やす!です。大体4時間は持つので快適で、猛暑日の必須アイテムになっています。妊婦は体温が高いもんで(笑)♡現在産休中♡

●お客様の『リレーエッセイ』

扇橋と俳句

山川元旦

九代目 入船亭扇橋 落語家 昭和六年生まれ 青梅出身 俳号

：光石は、伯父の感化で幼少から俳句に親しんでいた。更に中学の先生が俳人だったので、基礎を身につけ若くして才能が開花した。しかし高校時代、生活苦からバイトをしなければならなかった。

その反動は師と仰ぐ水原秋桜子に向いた。「毎日俳壇」「馬酔木」そして秋桜子の自宅まで投句をくり返した。その褒美として「馬酔木」の句会に招待された。

その席上、師から「この子は末恐ろしい子で毎日の様に投稿してくる熱心な少年です」と万座の中で紹介された。後年、秋桜子の歳時記に

山吹に少女の雨具透きとほる
溝蕎麦の花淡し吾が立つ影も

の二句が採用されている。

さて、バイト先の社長が浪曲好きで一日中聞いていたので自然に覚え上手にウナることが出来た。ラジオの素人番組に出演、その時、局の人に落語の方が向いていると言われ三代目桂三木助の弟子に紹介された。四年後三木助死去、五代目小さん門下に移り「さん八」の名で二ツ目になる。

その頃、或る会の二次会で江国滋、永六輔、小沢昭一等の話が盛り上り、次の機会と言う時、末席のさん八を見付け句会にしようとする「やなぎ句会」が始まった。昭和四十四年のことだった。

翌年、扇橋の名で真打になる。先代の扇橋も俳句を作り、有名なのは

梅が香や根岸の里の佗び住まい

上五にどんな季語を入れても句になる、すぐれ物である。

話は飛ぶが、私達は六三制の恩恵により中高六年間良き学生時代を送った。

その六年の絆が、新宿にクラブを作り、その中に俳句同好会「季楽句会」を発足した。

同人に、落語愛好家がいる、私財を投じて「若手研修会」を開催した。人情家の師匠は早速、選句と短冊、総評の役を引受けてくださった。

古くて小さい「虚子の季寄せ」をループで見ても兼題を出すのだが「植物」が多いのが難点。

しかし吟行に行くと、句をそえて草花の説明をしてくれる。正に歩く歳時記。

最後に私の選んだ光石の三句

春光にことほぐ声の揃ひけり

地下鉄を出て浅草の彼岸かな

北国はつづらに赤きななかまど

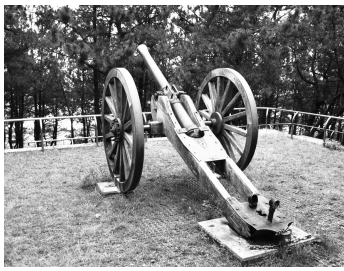
(敬称略)

新潟ぶらり

★ドン山

ご存知の方もいらっしゃるのではないだろうか。ドン山は、かつて人々に正午を知らせる空砲を撃っていた午砲所の愛称である。午砲のひびきは俗に「ドン」と呼ばれて親しまれたため、のちに午砲所をドン山と呼ぶようになった。

護国神社を背にしてまっすぐ鳥居をくぐり、少し左側に方向修正をしながら十五分ほど林の中を歩いていくと、左手に白い小屋と大砲（現在はレプリカ）が置かれた場所が見つかる。途中、良寛や会津八一等の歌碑が散在していて、ひとつひとつみていくと退屈しない。



子供たちは夏休み真最中の早朝、護国神社前の広場で行われている町内の方々のラジオ体操を横目に、ドン山を目指していた。林の中ではウォーキングや犬の散歩をされる方も何人かいらっしやうた。林の向こう側には日本海が広がる。風が

気持ちよい。

新潟育ちの私は小学一年生のときの遠足でドン山に行った。当時は本当に山登りの気分で歩いてきた記憶があるが、あれから数十年経った今もう一度歩いてみると、やはり起伏が多くていい運動になった。

明治六年、新潟市の寄居砂山というところに午砲所が設置され、報時業務を開始した。その後大正八年に、午砲所は現在の西船見町の高台に移転する。それからドン山という愛称がつけられ、大正十三年に礎町に報時塔が建造されるまで、五十二年間人々に時刻を知らせてきた。

砲先は、海側を向いている。初めは市街地に向いていたが、近くにできた中学校の勉強の支障になるといふことで向きを変えられた。よほど大きな音だったのだろう。風向きによつては遠く離れた新発田まで聞こえることもあったという。

ドン山の「ドン」は、半ドンなどに使われるドンタク（＝休日）からきているともいわれている。週休二日制が広まり、半ドンという言葉もほとんど聞かれなくなった。時代は変わっていくがドン山は人々に愛され続けている。道中、少し不安になつて、ウォーキング中の方に道をお尋ねした。「ドン山」とお聞きしたときのその方の笑顔が忘れられない。ありがとうございました。（仲由真実）

★信濃川クルーズ

萬代橋を渡っているとき、信濃川を航行する船（水上バス）を見かけることがある。優雅だなあ…、あつ、橋の下を通っている、どんな感じなんだろう…などと毎回思っていた。

住んでいるところによっては身近なかもしれないが、私にとっては非日常の乗りもの、船。かつての新潟は舟運で栄えた水都であつたし、松尾芭蕉も越後平野の船旅を経験しているという。芭蕉の旅とは似つかないかもしれないが、うらやましく見つめていたあの船に、ついに乗ってみた。

水上バス乗り場は複数あるが、今回は新潟駅からもつとも近い、萬代橋たもと近くの「万代シティ」乗り場を利用。ここから終点の「新潟ふるさと村」へは約四十分で到着する（この区間の料金は七百元）。

船上からの景色は、それは格別である。デッキで涼しい川風に吹かれながら、緑化された堤「やすらぎ堤」でやすらぐ人を見つめる。自転車をこぐ高校生三人組を目で追う。船の定員に目をやる（〇八名とあつた。すれ違ふ船に手を振る。水尾をひたすら見続ける。念願の橋くぐりのときは、見逃すまいと意識を集中する——とやるのがたくさんあつて忙しい。ちなみに今回くぐった橋は、八千代橋、昭和大桥、千歳大橋、平

成大橋、新潟大橋、ときめき橋。川から見上げる橋はやっぱり新鮮なのだ。

途中、デッキから船内に移動。もっと早くこちらに来ればよかつた…と後悔してしまうくらい、静かで落ち着いたすてきな空間である。窓は大きく、視界の広いドーム型に設計されており、船内からでもゆつたりと水辺の風景を楽しむことができる。景観のよいホテルに滞在したらこんな感じだろうか、とすっかりいいところに遠出した気分になれる。

「大河悠々 水都逍遥」と水上バスのパンフレットに記されていたが、まさに贅沢な水上ぶらり旅。帰宅後歳時記を繰ると、「船遊び」の項目に次の句があつた。

遊船の白き水尾ひき橋くぐる

谷 愛子

私が乗った船も、誰かが橋の上から眺めていたかもしれないなあ…と思われた。（菅真理子）



■信濃川ウォーターシャトル株式会社
☎/025-227-5200



プレーボーイ

中西夕紀

最近読んだ桂信子の第二句集『女身』に、楠本憲吉が解説を書いているのだが、その最後の数行にこんなことが書かれている。

「桂さんと私とのつきあひは十年もの間、只純粹に俳句のみによつてつながれてゐたのだといふことを今更乍ら認識すると共に、そのことが良いことか悪いことかの批判は別にして、私の人生にとつてまことに珍重すべきことであるに違いないと、自分に言ひ聞かせてゐたのであつた。一九五五・一〇・一〇」

男女の十年もの長い付き合いで、何事もなかつたのは自分にとつては非常に珍重にあたいすることだつたと、自分に言い聞かせているというのだ。句集の解説にしては一風変わった。

汝が胸の谷間の汗や巴里祭

楠本憲吉

家業は料亭「灘万」。大正十一年生まれで、その昔慶応ボーイと言われた人。在学中から、すでに水商売の女性とのかかわりがあつた。この句はクスケンの代表句としてつとに有名。巴里祭が戦後を感じさせ、水商売の女性のドレスから覗く豊満な胸が、男の視線を離さない。

夏靴素直に僕を導く逢うために

風花やいづれ擁かるる女的身

相手は人妻もいたようだが、実に恋に堪能だつたことが窺われる。女性は従順に自ら進んで彼を自室へ導く。また、必ずものにするという自信に満ち溢れて女性を眺めている。勿論この二句は違う女性を描いている。このように中年を描

前回までの著者、高田正子さまに続いてご執筆いただくのは、誕生から3年という若い結社「都市」を率いる中西夕紀さま。高田さまとは「近所」同士、時どき誘い合せて吟行をされるのだとか。初回、一気にクスケンの世界に引き込まれました。

いた『孤客』は飽かずに恋を描き続けている。辟易しながら嘘かまことか、ドラマのような恋の遍歴について行くと、

寒雷怒る妻を欺くこと勿れと

間に挟まれて描かれている妻への自責。妻を恐れながらも、手当てもしないまま女遊びに耽る。

散る柳スリムk氏の背に肩に

k氏とはクスケンその人。一見自分を客観化して見せているようだが、銀座の柳にちよつと格好良すぎないか。

クスケンの真骨頂は、

ロミオ忌の舌より柔かきチーズ食ふ

ジュリエットのような乙女の舌を想像させるが、これはロミオがキープワードになっている無季の句。チーズの食感から、キスを暗示させて、官能の世界へ誘う。ロミオ忌とはマイッタ。ナルシストだけどうまい。そんな中に「桂信子居門前」の前書きのある句に突き当たつた。

信子待つ窓ひまわりは夜も真顔にて

今まで出てきた女性の多くは、クスケンの自慢ばなしだらうが、どこか淫靡に媚を売る印象だつた。しかしこの句の（待たれている女性）は、向日的で、車両会社の勤めから帰つた（真顔）という硬質を持って、夜の帝王を迎える。緊張の走る夜の訪問である。

これだから、桂信子とは、十年もの長い付き合いながら、何ごともなく過ぎ、「信子にはかなわない」と自分に言い聞かせながら「すごと帰って行つたのだ」。

2011. 8. vol.57 (2011年8月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜悲哀楽書房 株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

編集後記

学生の頃、夏休みに帰省すると父の指先が黒いことでそれとわかる。今日はズイキの味噌汁だ！「朝市をはごしたて」と、地元の寺町、萬代橋を渡って白山浦の朝市まで、大好物のなす漬用の鉛筆なす、十全なすを買いに行つたらしい。パミュダパンツとランニングシャツで自転車に乗る姿を想像する。他にも新しいような山盛りのみょうが、戻り返ったきゅうりや辛〜いなんばん。食べ物も供されつつ、確かな気ももらっていたんだ。焼き肉もいっけど、だからこそそんな栄養価はあまり期待できそうもないソウルフードが夏のスタミナ源として背中を押す。暑い夏どうぞお元気で。(木戸敦子)